

## 地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第24期・第1回）議事録

日時：平成29年12月26日（火） 9:30-12:10

会場：東京大学地震研究所 1号館2階 セミナーA室

出席者：春山成子，石川徹，伊藤悟，奥村晃史，小口高，川幡穂高，小嶋智，近藤昭彦，齋藤文紀，佐竹健治，篠田雅人，杉田文，鈴木康弘，張勁，津田敏隆，佃栄吉，橋口公一，氷見山幸夫，平田直，村山祐司，村山泰啓，森田喬，山形俊男，矢野桂司，山田育穂

スカイプ参加：伊藤香織，谷口真人

欠席者：石川義孝，高橋桂子，碓井照子，沖大幹，寶馨，中田節也，山岡耕春，安成哲三，山川充夫，山下博樹

### 配布資料

資料1. 地球・人間圏分科会の設置

資料2. 地球・人間圏分科会の名簿

資料3. 23期地球人間圏分科会からの提言(災害軽減と持続可能な社会の形成に向けた科学と社会の協働・協創の推進)

資料4. 23期からの申し送り事項について

資料5. 地球人間圏について(提言より)

資料6. 地球人間圏夢ロードマップ

資料7. 地球人間圏科学—持続可能な日本，アジア，世界の実現の道 8. 旧期の学術会議大型研究計画(マスタープラン) 申請フォーマット

### 議題

1. 分科会の委員長互選と役員選出（副委員長および幹事）
2. 谷口委員による Future Earth プログラムの現況について
3. 分科会委員の自己紹介（専門分野の紹介を含む）
4. 23期地球・人間圏分科会活動と課題
5. 英文書籍並びに和文書籍出版に関わる経過
6. 24期地球・人間圏分科会の活動方針の説明と審議
7. 大型研究について
8. その他

### 議事録

議題1. (議題の1と2を入れ替えて審議)

谷口真人委員より Future Earth の研究組織，ネットワーク，最近の活動（国内・国外）

などについて説明があった。より詳しい情報は Future Earth のウェブページで参照できることも紹介された。

#### 議題 2.

委員長に春山成子委員が互選された。引き続き春山委員長が平田直委員を副委員長に、伊藤悟委員、小嶋智委員を幹事に指名し、了承された。

#### 議題 3.

各委員から所属や専門を含めて自己紹介がなされた。また、欠席の安成哲三委員のメッセージも紹介された。

山下博樹委員の辞任の申し出が報告され、承認された。この他に、今後、委員追加があることが紹介された。

#### 議題 4.

春山委員長から分科会の設置目的、これまでの活動に関する説明があった。本分科会は、シンポジウムを毎年開催し、提言もほぼ3年ごとに出してきたことなどが紹介された。

氷見山幸夫前委員長より、先期の提言「災害軽減と持続可能な社会の形成に向けた科学と社会の協働・協創の推進」に関し、内容や背景等の説明があった。また、この分科会の特徴として、広い分野の人が全員で課題に取り組んできたことが紹介された。

#### 議題 5.

##### 【和文書籍の出版準備状況】

鈴木康弘委員より次のような説明があった。すなわち、鈴木・山岡・寶委員が編集委員となり、古今書院より「地球の未来を科学は今どう捉えているか」というタイトルで出版予定あり。地球の未来に対する24の設問に執筆者が答える形式とのことであった。

既にほとんどの原稿が集まっており、1月から校正作業に入り、5月のJpGUで出版・販売することが目標とされた。

##### 【英文書籍の出版準備状況】

氷見山幸夫委員より次のような説明があった。すなわち、Springerより出版が予定され、執筆者は20名程度で、現在2/3程度の原稿が入稿済みである。

#### 議題 6.

これまで通り、シンポジウムは年1回行い、提言を出すことも目標とする。3年目に提言を出すことを目標とするが、学会会議の都合も考慮する必要がある。

24期の活動に関するブレインストーミングを行い、以下のようなキーワード、キーセンテンスが紹介された。

- ・ 地域研究，地域経営の1手段としてのジオパーク。
- ・ 23期に取り組みなかった気候変動や地球温暖化，水資源問題。
- ・ 23期はやや抽象的な議論が多かったのもっと現場に近い話を。
- ・ オープンサイエンス，社会への事実提供としての研究データの共有。
- ・ 自然圏を人間社会との関わりの中で理解する。
- ・ SDGs，Energy，都市と防災，海洋保全，生物多様性，気候変動，人類の進化とレジリエンス。
- ・ 本分科会は第1部とのパイプ役や他分野とのハブ役を担うべき。
- ・ 自然災害：国と地域の関係の中で考える，災害教育の充実・普遍化。
- ・ 地理情報の地図表現方法。
- ・ 防災にあまり特化せず人間安全保障全般（心のケア，道徳の進化，他者の痛みなども含める）という視点を持つ。
- ・ 地球人間圏科学という教科書の必要性。若い人に夢を与えるものを作る。
- ・ 夢ロードマップとの整合性。
- ・ SDGs，教育（地理＋地学＋生物などの他分野），Citizen Science。
- ・ 2040年の日本をイメージした活動を。限界集落。
- ・ 干ばつ災害という視点が欠落しがち。世界規模でみると重要。

以上のような意見をもとに春山委員長より以下の2点を活動方針とすることが総括された。

- ・ データサイエンスをキーワードに活動し，シンポジウムに結びつける。
- ・ SDGsをキーワードに活動し，こちらは提言に結びつけたい。

なお，教育問題は人材育成分科会でも扱っているので，そちらとの調整が必要である。

#### 議題 7.

平田委員より，先回は掘削科学，地震火山，地球深部固体地球科学に関する提案を行ったことが紹介された。

それを受けて，大型研究を出す場合は，ロードマップにキーワードを入れる必要性や，夢ロードマップ作成には，JpGUより送られてくる予定の共通フォーマットを利用するなどが指摘された。

#### 議題 8.

分科会員のメールアドレスの取り扱いについて意見が出され，最終的な取り扱いは委員長に一任することとなった。

次回の分科会は，他の地球惑星科学委員会の分科会の開催予定も考慮し，4月上旬に開催する予定となった。